

御前山ビオトープ周辺の植物等

山地のやや湿り気のある所に生える多年草です。春早く、広がった葉のもとから花茎（花をつける茎）を伸ばし、その先に3～5個の花をつけます。花の咲き始めは花茎も短く、10cm程ですが、花を咲かせたままどんどん伸び、花が終わるころには、70cmほどにもなります。これは種を風で遠くに飛ばしやすくするためです。種は長さ5mmほどで糸くずのようなものです。



（ユリ科 ショウジョウバカマ属）
（写真・データ提供 御前山ダム環境センター）

みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

ホストタウン交流計画の一環として、パラオ共和国から来市している2人の研修生が本市とパラオとのさらなる友好関係交流事業を企画立案する素材として、「陶芸（御前山）」と「西の内紙」で伝統文化の体験をしました。

1月

陶芸作家の菊地弘さんが構える山王窯で、陶芸の基礎や歴史等を教わったあと、「手びねり」の技法で、ひも状に伸ばした土を重ねながら器や皿などを作りました。「電動ろくろ」では、何度も失敗しながらも茶碗や湯呑などを製作しました。

シェナさんは、「陶芸は、とても面白くて楽しい。日本からパラオに伝わったとされるさまざまな工芸や文化、技術等をもっと知りたい。」と話していました。



▲手びねりで器を作るシェナさん

2月

紙のさと（舟生）さんの協力で、楮が栽培される舟生・盛金地区の傾斜地で高さ2mを超える楮の刈り取りのほか、運び出す作業をしました。その後蒸しあげた楮の束を一齐に取り出し、湯気が立つ楮の皮をきれいに捻じりながらむき取り干しました。ケネリーさんは、「1枚の西の内紙になるまでには、長い時間と労力がかかる。自然エネルギー（太陽・土・水等）の力で和紙になることが分かり、とても良い経験になった。」と感想を述べていました。



▲むいた楮の皮をまとめるケネリーさん

常陸大宮市の人口

（2月1日現在・推定常住者）

総人口 39,662人 世帯数 16,029世帯
（男 19,571人 女 20,091人）



広報 常陸大宮 2月 第186号

発行日 令和2年2月25日

発行/常陸大宮市 編集/秘書広聴課

〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail hishokou@city.hitachiomiya.lg.jp

U R L <http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>

